

外国関係機関からの本研究所来訪者

(1973年1月～3月)

- Dr. Y. Scott Matsumoto: Professor of Public Health, University of Hawaii, U. S. A.
年月日: 1973年1月9, 25日
用務: 日本の人口研究動向の調査
- Dr. Sylvester P. Theisen: Professor of Sociology, St. John's University, Collegetown, Minnesota, U. S. A.
年月日: 1973年1月31日
用務: 日本の人口問題について
連絡機関: 東京大学文学部(福武直教授)
- Prof. H. V. Muhsam: Hebrew University, Jerusalem, Israel
年月日: 1973年2月12日
用務: 日本の人口問題ならびに Committee for International Coordination of National Research in Demography による Seminar on Demographic Research in Relation to Population Growth Targets について
連絡機関: 在日イスラエル大使館
- Miss Jacqueline E. Johnson: Special Assistant to the Director, Department of Human Resources, District Building, Washington, D.C., U. S. A.
年月日: 1973年3月12日
用務: 日本の人口動態率の状況聴取
連絡機関: 日本地域開発センター
- Mrs. Kerstin Alfvén: Djursholm, Sweden
年月日: 1973年3月13日
用務: 日本の人口問題とくに家族計画の実情について
連絡機関: 日本学術会議事務局(福島要一氏)
- Louis Lazaroff: The Asian Foundation
James Stewart: 上に同じ
年月日: 1973年3月15日
用務: 日本およびアジアの人口問題について

人口圧力 — 認識と政策に関する国際会議

1. 1973年1月3日から5日まで Pasadena の California Institute of Technology の Caltech Population Program 主催による Third Annual Caltech Population Conference が開催された。今回の人口会議のタイトルは "Population Pressure-Perception and Policy" である。
2. 参加者は Caltech からは Population program の Director, Harrison Brown (地球物理学者) をふくむ14名, AVFS (Association of University Field Staff, Caltech はその構成メンバー) からはハワイの Charles F. Gallagher をふくむ13名, 第3のグループは招請された人々で筆者(黒田)をふくめ14名である。外部からの参加者には既知の R. T. Ravenholt (AID), James A. Palmore, Jr. (Assistant Director for Institutional Cooperation, The East-West Center) 等の人々がふくまれていた。Stanford 大学の生物

学者で最近有名になった Paul Ehrlich は参加出来なかった。異色の参加者としては、Wayne State 大学の政治学の教授で最近中国人口の研究を精力的に行なっている台湾出身の Pi-chao Chen をあげられる。

3. 議事日程

1月3日(水)午前— California Institute of Technology の学長 Harold Brown の開会の辞に始まり, John Waterbury (AUFS) の “Egyptian Elite Perceptions of the Population Problem”, Marcus Fanda (AUFS) の Perceptions of a Population Policy for Bangladesh” の報告があり, 討議が行なわれた。午後— Victor Du Bois (AUFS) の Population Problems, Perception and Policy in Rwanda” および Thomas Sanders (AUFS) の “Population and Perception in Costa Rica” の報告があり, 討論が行なわれた。

1月4日(木)午前— Dennison Rusinow (AUFS) の “Slovenia: Modernization Without Urbanization?” および Charles Gallagher の “The Environment in Japan” の報告があり, 討論が行なわれた。

午後には Loren Fessler (AUFS) の “Chinese Conceptions of and Policy Toward Population Growth in People's Republic of China”, Willard Hanna の Perceptions of Population Pressures in Singapore”, Carl Djerassi (スタンホード大学化学教授) の “On the possibility of creating, in Stockholm, an interdisciplinary group on population problems” の報告があり, 討論が行なわれた。

1月5日(金)午前— Albert Ravenholt (AUFS) の “Land-Mar-Productivity Microdynamics in Rural Bali”, Norman Gall (AUFS) の “Oil and Democracy in Venezuela” の報告があり, 討論が行なわれた。午後— Jon McLin (AUFS) の “Population Pressures and Resource Exploitation in the Northeast Atlantic” の報告があり, そのあと一般的討論が行なわれ, Harrison Brown の閉会の辞によってこの会議は終了した。夜カクテルパーティが Athenaeum Patio (ゲストハウス) で行なわれた。

4. 所 感

(1) 工科大学に人口研究部門があり, 地球物理学者がその所長として調査研究を行なっていることは, 人口の分野の学際的特徴からみて注目される。特に, AUFS の世界の低開発国についての現地調査が報告の中心となっていることは, アメリカの調査研究における規模の大きさと関心の所在を十分に示している。

(2) Charles Gallagher 氏が, 4日の報告のあと, 日本の人口移動と再分布について10分ないし15分の報告を行なう要請があった。その説明の要旨は次のごとくである。(i) この会議は Perception and Policy となっているが, 現実の過程をマイクロ的に考えると Perception と Policy の間に Behavior をおくことが適切ではないか, (ii) 人口学的行動を考えるばあいの基本的条件として, 国土・人口, マスコミ, 教育を考慮するが必要, (iii) さらに変動する経済的, 社会的条件に対する考慮, (iv) 日本人口の移動行動の歴史的概観を行なうと共に最近におけるその新しい変化について説明を行なった。(黒田俊夫記)

ハワイ東西センター人口研究所国際諮問委員会

1. ハワイ東西センター人口研究所の国際諮問委員会1973年会議が1973年2月19日, 20日の2日間にわたって東西センターで開催された。

2. 参加者

現地側からは人口研究所所長の Paul Demeny, 研究所幹部の Palmore, Cho, Faucett, さらにハワイ大学副総長の山村教授, 外部からは議長の Hauser, フィリピン人の Concepcion, タイの Visid, インドネシアの Suwardjans, 国連の Chandrasekaran と筆者(黒田)が参加した。

3. Demeny 所長より現在までの活動ならびに次年度の計画について詳細な報告があった。特に, 人口の中核領域として次の4個をあげ, これにもとづいて調査研究, 大学院教育, 専門的研修の開発(セミナー等), 関係研究機関の協力を行なっている。(1) 人口の “process” と構造, (2) 人口学的行動の原因— Faucett